

基本的な被害対策の考え方

イノシシに限らずクマやシカなど大型ほ乳類による被害を防ぐためには4つの方法しかないといわれています。それは、(1) 物理的進入防止柵の設置、(2) 個体数管理、(3) 被害を受けない作物への転換、(4) 被害が出る地域からの撤退です。

物理的進入防止柵の設置

設置や管理の方法を間違わなければ、もっとも効果的で確実な方法です。イノシシだけではなくシカなどにも有効です。その反面、設置に労力と資金が必要になる欠点があります。なお、忌避剤や爆音機の進入防止効果はあまり期待できません。

個体数管理

生息数が増えすぎた場合、森林自体を破壊してしまうシカのような動物に対しては、最も重要な対策です。しかし、イノシシの場合は森林に与える影響が少ないと考えられること、繁殖能力が高く捕獲しても生息数を少なくするのは困難であることから、この方法を主眼とした対策は効果が出にくいと考えられます。例えば浜田市の調査では、数多くのイノシシが捕獲される狩猟期間であっても、おおよそ60%以上の個体が生き延びていることが明らかになっています。イノシシの雌は1才から妊娠でき、毎年発情します。また、一回で平均4.5頭程の子供を出産するといわれています。これらのことから、イノシシの個体数管理がいかに難しいかが想像できます。

被害を受けない作物への転換

江戸時代の焼き畑などでは、有芒品種(ゆうぼうひんしゅ：芒(のぎ)の長い品種)のイネやヒエを選んで栽培していたことが記録されています。お茶やたばこなどイノシシが出没しても被害を受けにくい作物や林地へ転換する方法もあります。

被害が出る地域からの撤退

現在の島根県の山間部はこの方法を強いられているといえます。一方で、圃場整備などを行う際、被害を受けやすい農地を被害が出にくい場所に移動するといった手段は、有効な対策となり得ます。